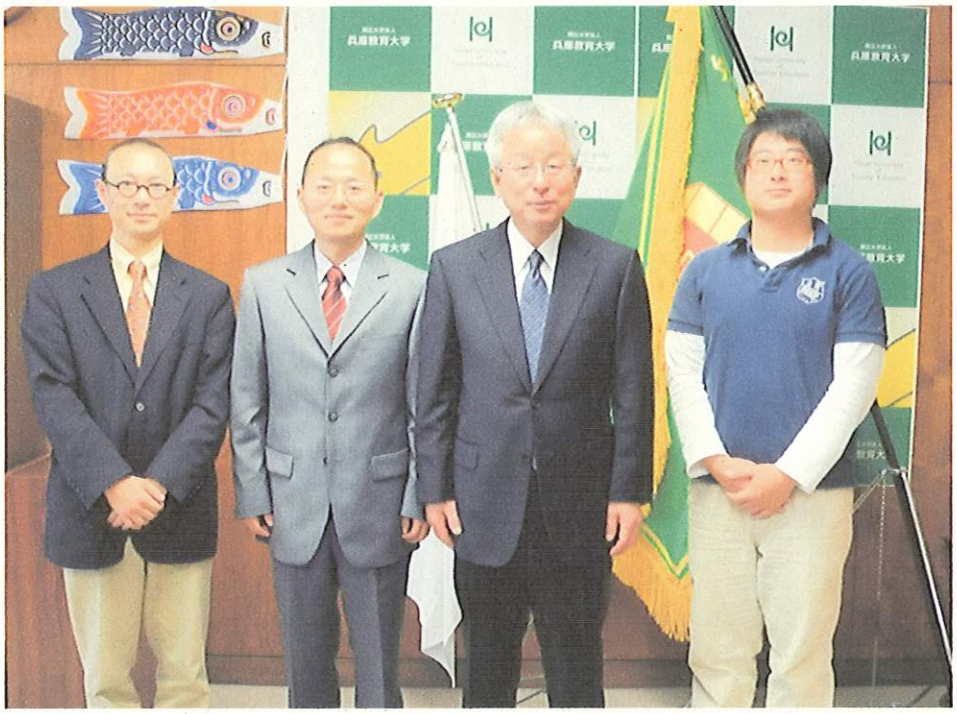
「日中水利社会の比較研究」プロジェクト

総括報告

馮賢亮
復旦大学歴史系，中国 上海 200433

一、兵庫教育大学での交流と講演

兵庫教育大学松田吉郎教授の準備によって、2011年10月27日に私は中国東方航空MU9821便にて 18 時 25 分に日に関西国際空港に到着し、兵庫教育大学嬉野会館に宿泊した。翌日午前 9 時に兵庫教育大学に赴き、松田教授と面会し、そこで大学院生の王亜林君に通訳してもらい、また南埜猛先生とも面会した。11 時加治佐哲也学長を表敬訪問した。午後 3 時より、兵庫教育大学教育言語社会棟 718 講義室にて「中国水利社会―長江太湖を例に―」と題して講演を行った。午後 4 時 30 分に大阪の堺東に向かい、東横イン堺東駅店に宿泊した。



加治佐哲也学長、南埜猛先生との合同撮影

教育・言語・社会棟 718 講義室における講演

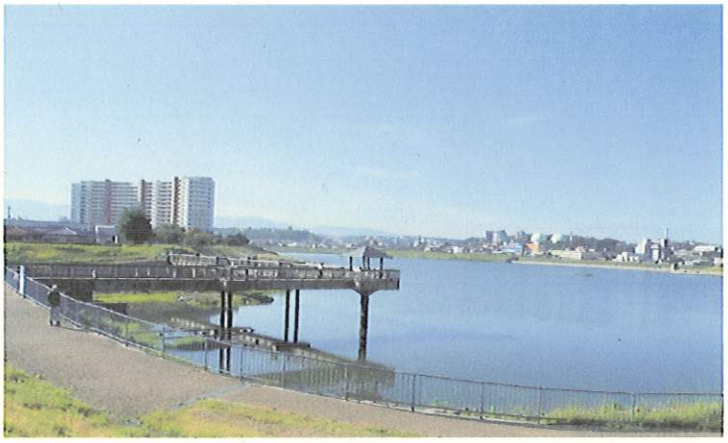
二、日本の中国水死研究会大会における交流と論文発表

10 月 29 日午前 7 時にホテルを出発し、南海電鉄堺東駅より大阪狭山市駅に向かい、同駅下車後、大阪府立狭山池博物館に赴き、中国水利史研究会開催の大会に出席した。大会のテーマは「日中水利社会の比較研究」であった。会議は松田教授によって進められ、会議の開会式では工楽善通先生（大阪府立狭山池博物館館長）、藤田勝久先生（愛媛大学教授・中国水利史研究会会長）が挨拶を述べられた。その後、専門の研究論文の発表が続いた。午前は小山田宏一先生〈大阪府立狭山池博物館学芸員〉の「狭山池の水利技術」、午後は權純康・李保京両先生（ウリ文化財研究院建築考古チーム課長代理・同４課チーム長）の「最新の韓国水利遺跡発掘調査成果―伽倻里与薬泗洞的堤防」、川端泰幸先生（大谷大学講師）の「日本中世の水利と共同体」及び私の「太湖平原的水利変化與地方社会（1368－1928）」であった。研究会終了後の晩には狭山池博物館が準備した懇親会に出席した。東横イン堺東駅店に宿泊。

水利史研究会大会における報告

狭山池博物館

10 月 30 日も引き続き狭山池博物館に赴き会議に参加した。合計、三本の大会報告があった。午前は松田吉郎教授の「寧波広德湖の水利と廟」、午後は井黒忍先生（早稲田大學高等研究所助教）の「“明清以來的環境変遷與水利社會國際學術研討會”参加報告」及び鈔曉鴻先生（廈門大學教授）の「明清以來関中中部水利文獻調査與発現」があった。引き続いて総合討論があった。閉会式では伊藤敏雄先生（大阪教育大学教授・中国水利史研究会副会長）が挨拶を述べられた。会議では各発表者には 1 時間 30 分の時間が配当され、報告と質疑応答がなされ、参加各員は各自の関心のある問題について、観点が提出され、熱心に討論が行われた。東横イン堺東駅店に宿泊。



狭山池

この 2 日間の会議の合間に日本史上最古の人工湖の狭山池の水利形態を考察し、関連の水利技術史を理解することができた。 この 2 日間の通訳業務は留学生の趙從勝君と王明明君に担当してもらった。

三、日本の地方水利施設の考察

10 月 31 日に、松田教授が計画した日本の伝統的水利施設の考察と学習を開始した。留学生の張静さんと曹昕雯さんが通訳として付き添ってくれた。早朝に堺東を出発し、難波駅に到着して，難波から高速バスに乗車し、徳島県徳島市に赴き、昼食後、吉野川第十堰を参観した。その後滿濃池（日本の第二番目の古い人工湖）に赴き、滿濃池博物館を参観した。その後，高松市の行き東横イン高松中新町店に宿泊した。

吉野川第十堰

滿濃池及び周辺地形

滿濃池

滿濃池疏水處

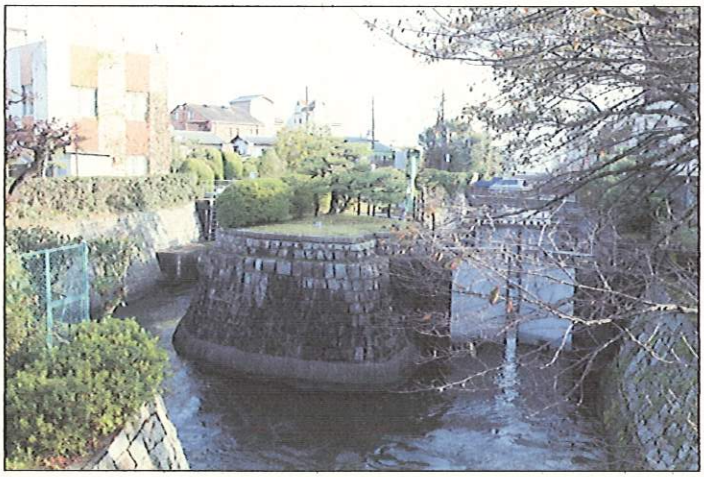
鈔暁鴻教授・松田教授との記念写真

11 月 1 日，早朝 7 時に出発し、岡山に赴き、新幹線に乗り換えて京都に到着した。琵琶湖疏水記念館を参観し、また附近の南禅寺内にある水路閣（分水路）を見学した。同日亜は滋賀県大津市の東横イン滋賀大津店に宿泊した。

琵琶湖疏水紀念館

南禅寺内の水路閣

11 月 2 日、早朝 7 時に出発し、琵琶湖疏水取水口及び三井寺を訪問し、10 時に MICHIGAN 号に乗船し、琵琶湖を遊覧し、琵琶湖疏水の水源を考察した。日本最大の淡水湖琵琶湖は湖の面積が非常に大きいので琵琶湖の南湖部分の考察だけ行った。昼食後、大津を出発し、東海道新幹線に乗って名古屋に赴き、弥富の地方郷村水利形態を考察した。同晩に新幹線等に乗車して大阪に戻り、東横イン梅田中津に宿泊した。同日は，留学生の哈斯図力古尔（ハストリゴラ）君に通訳をしてもらった。



琵琶湖分水處

松田教授との写真（背後に望琵琶湖）

琵琶湖 南湖

弥富地方の水系

11 月 3 日早朝、空港行きリムジンバスに乗り関西国際空港に到着し、中国東方航空 9 時 40 分発の便にて中国（上海）に戻った。

四、感想と評価

兵庫教育大学の短期招へいプログラムによる松田吉郎教授が担当した今回の学術交流と考察活動は、中国水利社会史研究に長期的に従事している私たちに、良い学習と交流の機会を提供し、日中伝統水利史の異同を深く学ぶことができた。私の従事している中国太湖平原水利社会史の研究に対して言うと、太湖平原地区は天然形成し、長期の人工的な改造を経て、低い平原の地表が大きな変革が発生し、湖・池・溝・河・浜・塘等の水利形態も複雑であった。日本の著名な狭山池と満濃池の水利は、山間の低地に位置しているため、水利の形態が長い間であまり変化せず、よく保存されている。しかし、水利技術・水利社会の各種の点で日中両者には多くの共通点がある。即ち、ダム施設・排水通路の設置・農村社会の水争い事件・一定地域範囲内での水利関係の利益共同体・水利文化と関係する神霊信仰等である。比較研究の面から、日中のこれら方面の水利史に対して系統的な考察を深く展開する事は、非常に有意義な学術研究であろう。

私の浅見であるが、兵庫教育大学は規模が大きくないが、学術の雰囲気が濃厚で、水利史の研究において、松田吉郎教授と南埜猛准教授の二人の傑出した学者もいらっしゃって、これは中国の大学にはない状況である。即ち、兵庫教育大学の水利史研究上における実力の優位性を意味している。日中水利史比較研究の計画から言うと、日中学者間の協力交流を強化することは、兵庫教育大学の歴史学殊に水利史研究分野においての地位をさらに高める上で重要である。私自身としては、兵庫教育大学とのより一層の協力交流の機会を希望し、上述した領域と関係する最新の研究を提供し、可能な協力体制の構築に積極的に努

力したい。

（本報告書は，馮賢亮先生が作成された報告書（中文）を日本語訳したものである）